

分担研究者 松本俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所

【1】 渡航先

ウースター、ボストン、ニューヨーク (米国)

6月6～7日 ボストン

Harvard Universityにて開催された、若年者の自傷行為や物質乱用に関するワークショップ

【2】 渡航期間

平成20年6月4日～11日

「SELF-HARMING BEHAVIORS: Treating the Spectrum of Injuries」に参加し、若年者向けプログラムや教育ツールに関する情報収集、および海外の研究者との意見交換を行った。

【3】 渡航目的

物質乱用や自傷行為といった自己破壊的行動を呈する若年者に対する認知行動療法や弁証法的行動療法で高く評価されている施設を視察し、わが国において、若年者を対象とした物質乱用の治療プログラムを作るうえで必要な体制、設備、研修のあり方に関する情報を収集する。

6月8日 移動日

6月9日 ニューヨーク

また、薬物依存者の入所型回復施設として有名な同施設を視察し、わが国において、若年者を対象とした物質乱用の治療プログラムを作るうえで必要な体制、設備、研修のあり方に関する情報を収集する。

薬物依存者の入所型回復施設として有名な DAYTOP International Inc. を訪問し、わが国において、若年者を対象とした物質乱用の治療プログラムを作るうえで必要な体制、設備、研修のあり方に関する情報を収集した。また、堂施設の施設長である Aloysius Joseph と意見交換を行った。

【4】 渡航旅程

6月4日 成田出発

6月10日 ニューヨーク発

6月5日 ウースターにある The Bridges of

Central Massachusetts を訪問し、施設や治療プログラムの視察を行うとともに、施設の所長である Barrent Walsh 博士をはじめとする施設職員との意見交換を行った。なお、この施設は、物質乱用や自傷行為を呈する若年者に対して、入所施設内における集中的な認知行動療法や弁証法的行動療法で評価が高く、2004年には米国心理学会で金賞を受賞している。また、Clark 大学において、わが国の若年者における自傷行為と薬物乱用の現状について報告を行うとともに、同大学の心理学系の研究者と意見交換を行った。

6月11日 成田着

【5】 渡航成果

若年の薬物乱用者は、薬物乱用問題に加えて自傷行為や摂食障害などの広範な自己破壊的行動を呈する者が多く、外傷後ストレス障害、解離性障害、気分障害といった重複診断を持つ者も少なくない。米国では、こうした若者に対して、認知行動療法や弁証法的行動療法なども含めた、統合的・包括的な治療プログラムを提供していることが分かった。

(別添5)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社名	出版 地	出版年	ページ
尾崎 茂、 栗坪千明、 幸田 実、 小松崎未 知、近藤あ ゆみ、関 紳一、高橋 郁絵、松 本俊彦、三 井敏子、和 田 清			ご家族の薬物 問題でお困り の方へ	発行：厚生労 働省医薬食 品局監視指 導・麻薬対策 課、制作作 成：再乱用防 止資料編集 委員会。		2007	
和田 清	Ⅲ. 思春期の保健 薬物の乱用・依存・ 中毒	思春期医学 臨床テキスト	日本小児科学 会編(監修 別 所文雄、五十嵐 隆)	診断と治療 社	東京	2008.4.25.	76-80
和田 清	第8章第2節8-2-9 薬物依存	編集 精神保 健福祉白書 編集委員会	精神保健福祉 白書2009年版	中央法規出 版株式会社	東京	2008.12.1.	155-155
嶋根卓也	青少年の薬物乱用	林謙治	青少年の健康 リスク-喫煙、 飲酒および睡 眠障害の全国 調査から-	自由企画・出 版	東京	2008	97-107
松本俊彦	思春期と薬物乱用	中根晃・牛島 定信・村瀬嘉 代子	詳解 子どもと 思春期の精神 医学	金剛出版	東京	2008	89-96

雑誌

発表者名	論文タイトル名	発表紙名	巻	ページ	出版 年
村崎光邦、石郷岡 純、稲垣 中、亀井 雄一、田島 治、松 本俊彦、和田 清	適正使用のために 座談会記録 うつ病患者におけるリタリンから の離脱について	ノバルティスファーマ株式会 社	(小冊子)		2007
和田 清(監修)	適正使用のために 薬物依存とリ タリン	ノバルティスファーマ株式会 社	(小冊子)		2007
村崎光邦、石郷岡 純、稲垣 中、亀井 雄一、田島 治、松	座談会 うつ病患者におけるリタ リンからの離脱について	臨床精神薬理	11(2)	329-342	2008

本俊彦、和田 清					
和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ	薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題	日本アルコール・薬物医学会 雑誌	43(2)	120-131	2008
和田 清	心の健康をめざした薬物乱用防止教育を、特集 今こそ薬物乱用防止教育・指導の徹底を！	心とからだの健康	13 (133)	14-18	2009
和田 清	QUESTION & ANSWER Q 大麻が心身に与える影響について教えてくださいー A 大麻とは	健	37(12)	10-12	2009
尾崎 茂	覚せい剤精神疾患の疫学的研究	最新精神医学	14(2)	133-138	2008
嶋根卓也、和田 清	定時制高校生における飲酒・喫煙・薬物乱用の実態について	日本アルコール・薬物医学会 雑誌	42(3)	152-164	2007
嶋根卓也	薬物依存症治療の新しい挑戦	龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報	第5号	41-53	2008
嶋根卓也、和田清	定時制高校生における薬物乱用と問題行動との関連	日本社会精神医学会	17(3)	233-244	2009
宮永耕	薬物依存者処遇におけるサービスプロバイダとしての治療共同体について	龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報	第5号	19-39	2008
宮永耕	覚せい剤依存者の地域生活移行支援	最新精神医学	14(2)	171-176	2009
Matsumoto T, Imamura F	Self-injury in Japanese junior and senior high-school students: Prevalence and association with substance use.	<i>Psychiatry and clinical neurosciences</i>	62	123-125	2008
Kobayashi O, Matsumoto T, Otsuki M, Endo K, Okudaira K, Wada K, Hirayasu Y	Profiles Associated with Treatment Retention in Japanese Patients with Methamphetamine Use Disorder: A Preliminary Survey.	<i>Psychiatry and clinical neurosciences</i>	62	526-532	2008

平成20年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存等の実態把握と
「回復」に向けての対応策に関する研究
(H19-医薬-一般-025)

研究報告書
(総括研究報告書+分担研究報告書)

主任研究者：和田 清（国立精神・神経センター 精神保健研究所）

2009年3月31日 発行